

ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.612

2025年 8 月

7 月例会報告

7 月例会は 7 月 26 日(土)、市役所北館市民協同センターで開催され、25 人が参加した。

冒頭で福村副会長は、猛暑が続く中出席した会員に「体調にくれぐれも気を付けて過ごしていただきたい。また、これから第 53 回郷土史展をはじめさまざまな行事が続くので、皆さんの協力をお願いしたい」とあいさつした。

研究発表は吉本正就氏による「原爆投下の日志和での体験記」。

原爆投下前後の人々の生き生きとした暮らしの様子を、多数の写真を交えて紹介した。さらに原爆の開発から広島への投下に至るまでの経緯(マンハッタン計画)についても詳しく解説した。

発表後の連絡事項では、今秋開催予定の第 53 回郷土史展について、実行委員長を務める今田副会長が「戦争と平和～被ばく 80 年を経て～」というテーマを発表した。

また國松事務局長が第 48 回県史協倉橋大会について、来年から開催形式の変更があることを伝え、今年度の大会への参加を呼び掛けた。

この日の例会は、大きなテーマを掲げる郷土史展の開催を控えた私たちが、改めて戦争と平和について考えるきっかけとなった。

例会会場は、(郷土史研究会) 市役所北館市民協同センター

6 月例会発表

日本の台湾統治 50 年を考える

丸本 富美子

台湾は、オランダ等に支配されていた時期もあり、清の福建省からの移民が増加し、中部から北部へと開拓が進んだ。山地の多い東部は先住民が住み、未開拓の状態だった。

8 月例会のご案内

日 時 8 月 23 日(土) 13:30～

場 所 三ツ城地域センター

発 表 白市について

伊原聡子氏

年 代	日本の歴史	台湾の歴史
1984年 日清戦争 1985年 下関条約	・清国は、遼東半島 台湾 澎湖諸島を日本に割譲した。	・軍官民によって「台湾民主国」を樹立し、日本の領有に抵抗した。 ・三国干渉で列強の力を借りて台湾割譲阻止の要求をしたが失敗した。
1895年	・近衛師団 台湾東北端の澳底に上陸。台北に無血開城し、中部へ進出 台南入城。11月18日島内の平定を宣言。以後日本軍は南下し、次々都市を占領していく。 ・風土病(マラリア、アメーバー赤痢、ペスト、猛毒の蛇等)の脅威で、1 個中隊 250 名が 120 名に減った。	・各地では「土匪」と呼ばれる武装集団がゲリラ的に日本への抵抗を繰り返した。1895年末から大規模な武装蜂起が相次ぎ、台湾総督府は日本からの援軍を得て鎮圧し、数千人の台湾人が殺害された。 ・犠牲者 台湾住民 14,000 人 日本軍 278 人
1898年	第 4 代総督 児玉源太郎 民生長官 後藤新平のもと、ようやく統治が本格化する。台湾の古い習慣、制度を調べ、住民が相互監視する「保甲」を利用した警察制度をつくり、治安を安定させた。鉄道、道路、港湾などのインフラを整備し、台湾の産業発展の基礎を築いた。上下水道は、当時東京より早く整備した。	
1914年～	・佐久間総督(強硬派)が指揮し、台湾東部の太魯閣の生蕃討伐。標高 2,000m の山中で 80 日間戦った。総勢 1 万人、死傷者 2 千人。	・西来庵事件(タバニー事件) 千人が役所・警察等を襲った。首謀者は余清芳(よせいほう)。巡査補を解職されたことなどで日本を憎んでいたとされ、西来庵を拠点に、祭神王爺のおつげと偽り、反乱の決起を呼びかけた。ゲリラ戦 台湾全土に広がる。
1930年		・霧社事件 日本の圧政、開発に抗って、原住民のセデック族が霧社公学校の運動

		会に突入・蜂起した。日本人132名を殺害した。鎮圧に50日余、原住民が多く殺された。
1934年	日月潭第一発電所（金属、化学肥料）の建設	
1936年	台湾拓殖株式会社をつくり、東南アジアへの投資を積極的に推進し、軍事基地高尾港の再拡張、佐営軍港、煉油廠の建設を行う。	
1937年	日月潭第二発電所の建設（機械、造船、石油化学工業、繊維業、セメント業）	
1940年～	皇民化運動（日本への帰属意識を強化するため） 日本語の強制、日本名の強制、神道をもって民間宗教を消滅させようとした。 1941年 20万人の軍事動員 1945年 徴兵令開始 女子は特別看護婦	

■台湾のために尽くした人達

（1）八田與一（台湾総督府の土木技師）



八田ダムと華南大圳

- ・堰堤1,273m セミハイドリック工法
- ・給水路16,000m（万里の長城の6倍の長さ）
- ・華南大圳 15万haの土地 100万人の農家の暮らしを豊かにした。

（2）新渡戸稲造（台湾 産業の父）



- ・サトウキビの品種改良、大規模農園化製糖法を整備
- ・養蚕、台湾米、ウーロン茶等も

（3）磯 永吉（農学者）と末永 仁（技師）

台湾の在来米と日本の米を交配させた蓬莱米をつくる。

（4）森 丑之助（民俗学者）

台湾の先住民の居住地に魅了され、山岳地帯に住む原住民の文化、言語、神話等を調査する。新種「モリシャクナゲ」を発見する。1900年新高山（玉山）の初登頂を果たす。

（5）森川清次郎（警官）

病気の患者を助けたり、自費で教師を招き住民に教育をしたり、首切り習慣をやめさせたりした。減税を頼まれ、住民を扇動していると誤解され懲戒処分となった。村田銃で自殺した。

■台湾を稼げる島にするため

（1）大規模製糖工場を建設。最盛期には8つの工場があり、137万トンも生産し、紡績等と並び日本の代表的な産業になった。新渡戸稲造が台湾砂糖の父と呼ばれている。

（2）台湾茶、パイナップル等。

・阿里山鉄道の建設

1899年樟脳（クスノキから）を作り、木材を運ぶために日本人によって作られたもので、海拔39mから2,216mまで71.4km、42のトンネルと72の橋がある。今は、スイッチバックやスパイラルループを繰り返し、熱帯から温帯、2,000mの寒帯までの植物や溪谷が楽しめる。美しい世界の3つの山岳鉄道の一つで観光地として有名。阿里山という山はなく、明治天皇の命名の3,952mの新高山（今は玉山）と呼ばれていた。この山のヒノキが、明治神宮の大鳥居、靖国神社神門、東大寺大仏殿などに使われている。

開発した河合柿太郎は晩年、阿里山の民族の生活の場を奪う開発に加担したことを後悔した。



阿里山森林鉄道

（3）華南銀行

台湾拓殖株式会社を経営し、軍事基地として高尾港の再拡張、佐栄軍港、煉油廠の建設を行った。

（4）生産力拡充5か年計画を策定し、台湾の重工業の基盤づくりを進めるために、日月潭発電所等を建設した。

濁水溪（だくすいけい）の水を日月潭に導いて水位を20m上げ、延長2,978mの水圧隧道で有効落差329mの発電を行う最大出力10万kwの東洋一の大発電所計画。

完成するまでに15年間もかかった。この水力発電所は現在も台湾の水力発電全体の56%を担っている。



日月潭湖、発電所

■皇民化運動

日本への帰属意識を強化するために取り組んだ。

- ①国語は日本語を強制し、
- ②日本式の名前をつけさせ
- ③神道をもって民間宗教を消滅させようとした。
- ④さらに1941年からは軍事動員で20万人、1945年からは徴兵制が始まった。

しかし、台湾の軍属や軍人は終戦で日本国籍を失ったため軍事恩給を受けられず、1987年の議員立法で見舞金200万円をもらったただけだ。

■終戦後の台湾

年 代	台 湾 の 歴 史
1947年	日本の敗戦により、台湾は「光復」（祖国復帰）した。大陸からやってきた新長官陳儀、国府軍だったが、士気の低さや驕り、外省人との差等で混乱した。 2・28事件 群衆が抗議デモをしたので、国民党政権が武力で弾圧した。 1万8千人が犠牲になった。 中華民国憲法が施行 蒋介石が初代総督に
1947年 3月10日	戒厳令「白色テロの時代」 恐怖政治（38年間） 医師、弁護士、教育者、ジャーナリスト等日本統治時代高等教育を受けた知識人、政権を脅かすと疑われた者を根こそぎ捕まえた（14万人）
1949年	（1）毛沢東によって中華人民共和国が樹立した。 5月19日、中華民国台湾省政府主席の陳誠が、中国共産党が浸透し政府の転覆があることを理由に、台湾全土に戒厳令布告 （2）12月7日、蒋介石が150万人を連れ台北に脱出。 首都を南京から台北へ遷都
1950年	朝鮮戦争勃発 米は、東南アジアの共産化を恐れて台湾防衛の意思をかためる。 米は、1億米ドルの軍事・経済援助（15年間）

1970年代以降	国連を脱退 中華人民共和国の国連における中国代表権を認める決議が採択された。 エレクトロニクス産業の育成 行政院国家科学委員会と工業技術研究院は共に技術の研究・開発に力を注ぎ、その成果を民間に移転した。
1978年	カーター大統領は、中華人民共和国と国交を樹立した。 中華民国の承認を停止
1987年	議員立法で、弔慰金・見舞金 一律200万円 （戦後、軍属や軍人は日本国籍を失ったため、軍人恩給を受けられなかった。）
1990年	主要目標を新興のIT産業の発展推進
1996年	李登輝 国民の直接選挙によって選ばれた大統領 民主化が進んだ。 二国論（台湾の独立を主張）
1997年	台南に大規模なサイエンスパークが完成し、光エレクトロニクス産業に重点を置いている。世界の関連産業のOEM基地に半導体 世界の6割を占める
2024年	半導体製造企業 TSMC（世界最大） 熊本県へ

・日本占領50年間に、台湾は衛生管理やインフラを整え、教育制度の基盤を整え、発電所や不毛の地の給水設備等産業の基盤づくりをした。しかし、民族のことは奪い、宗教や生活習慣を破壊する暴力的な方法では、受け入れがたいものがあつた。しかし、オランダや日本などの支配をはねのけ、白色テロの時代を耐えて、中国にもよらない台湾人としての自覚を高め、独自の道を歩んでいると考える。政治闘争ではなく「世界の半導体」と言われるように、経済的に世界から注目される力をつけてきた。

・日本軍が占領するために、多くの台湾の人達、民族を殺戮したことは、許せないことだ。日本の侵略の歴史や相手国の抗日運動の歴史をもっと学んで、「侵略はしない、させない。原爆は作らない、使わせない」という強い意思を持ち続け、平和な時代を創っていくことに尽力したい。

頼山陽と西条・松子山

西本 嘉住

「寛政12年（1800）9月5日早朝、頼山陽は竹原の大叔父頼伝五郎の弔問のため下僕太助を伴い、広島城下の屋敷を出立した。西国街道を進み、西条を過ぎ松子山にさしかかったところ

で、太助に向かって刀を抜き、出奔した。脱藩を決行した9月6日は、朝から雨が降っていた。また、山陽の懐にはかなり高額の商品も預けられていた。山陽は常軌を逸する力に押されて、膨らみつづける願望を実行に移したのであった。

山陽21歳、脱藩がどれほどの重罪であるか知らないはずがない。

何日かして身柄は京都で確保され、父春水は『病のため正気を失って脱藩を図った』と広島藩に申し立てた。家の存続、山陽の助命を嘆願する事態に発展した。この事態に、余計なことは口外しないことや、関連するものなどは処分したと思われ、後世に伝わるものは、搜索費用など事務的なものであった。

明治になって頼山陽の研究家坂本箕山（きさん）が事跡を調べ、当時の当主、頼古梅から聞き取りを行った。それによれば刀を抜いた後、山陽は西条まで戻り、貧しい身なりの者と着物を交換し、白市経由で本郷方面に向かったことなどを知った。

さて、山陽の病についてだが、彼は幼い頃より利発なる子供であったが、7歳くらいの頃より精神を病みはじめていた。癩癩を起こして神経が昂ぶり、筋肉の痙攣を起こす「癩症」、いわゆる今日の躁うつ病である。自慢の息子の持病は、山陽の才能を誇らしく思う両親の悩みであり、ひとかたならぬものがあつた。

頼家の跡取り息子として多大なる期待をかけられ、藩儒は世襲制なので、山陽の将来は約束されていた。山陽が幼少から厳しく教育されていたのは、将来藩儒として立派に務めを果たせるようにする為であり、そこには武家となった父・春水の意気込みがあつた。

「除名された山陽は京都より連れ戻され、屋敷内の囲（かこい：座敷牢）に錠がかけられ、番人がつき家族との接見も認められず、5年間幽閉されることとなる」（見延典子著、月刊ウェンディ広島より抜粋）

私は頼山陽ネットワークの知人から依頼を受け、小説家で頼山陽の研究家でもある見延典子さんの道案内をすることになりました。

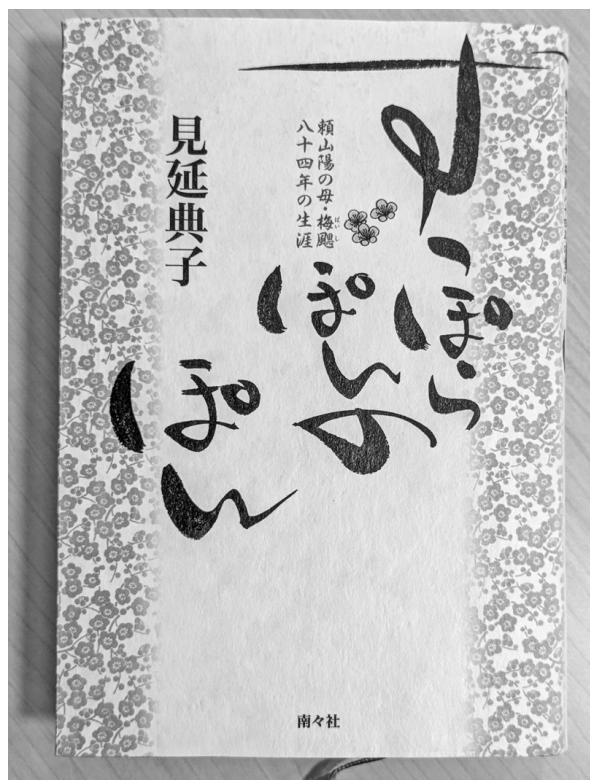
1回目は山陽の脱藩地点、松子山を見定めたいとの要望でした。峠に差し掛かる前の人気のないところで、山陽は刀を抜いて出奔しました。山陽は亡くなるまで、その日の出来事を語らなかったようです。2回目は真光寺、御建神社、国分寺、酒蔵通りです。



酒蔵通りにて頼山陽ネットワークのメンバーと

「頼山陽」という名前はなんとなく知っていたのですが、広島藩、浅野家の儒学者ぐらいの知識しかありませんでした。頼山陽と西条・松子山には、こんなに深い関わりがあつたのです。見延先生と頼山陽ネットワークの方々とは2回にわたってご一緒するうち、皆様の熱烈な「頼山陽愛」に接し、どこまでも追いかける情熱に心打たれました。

刺激された私も頼山陽を知りたくなり、見延先生よりお礼にとプレゼントされた著書「すっぱらぼんのぼん」を読み始めたところです。山陽の母・梅颯（ばいし）の日記で、女性として母としての日常を見延先生の解説で紹介されています。文章も分かりやすく、楽しく読み進めております。



メモ：頼山陽（らいさんよう）

1780～1832。書家、詩人、史家。広島藩儒頼春水の嫡男として大阪で生まれ、広島城下で成長。21歳のとき脱藩を図り、5年間屏居する。のち京都に移って活躍。代表作に「日本外史」。

安芸津・榊山八幡神社の絵馬 1

今田 幸博

第39回東広島の史跡・文化財を見て歩く会は、令和7年（2025）4月29日晴天のもと、東広島市安芸津町三津地区に於いて開催された。コースの中でメインとなったのが「榊山八幡神社」である。

当神社は「広島縣神社誌」によれば、「当地鳴河の地へ、宇佐八幡宮から勧請し奉斎したという。長治2年（1105）当榊山へ遷座し亀山八幡宮と称したが、天文年間（1532～55）に榊山八幡宮と改称する」とある。三津地区の総鎮守で古くから崇拝され、石燈籠や狛犬などの石造物や絵馬などが数多く奉納されている。

今回は、そのなかの「絵馬」について紹介する。

現在30面（神楽殿：28面・随神門：2面）が現存しているが、宮司の話では神楽殿建替え時に、破損や画の不明な絵馬は処分されたとのことで、以前はもっと多くの絵馬が存在していたと思われる。（現に本殿裏の倉庫内に数点の断片が現存している。）

現在懸げられている絵馬も、吹きさらしの神楽殿内にあり、経年や風雨の影響で傷みや褪色が進み、保存状態が良いとは言えない。

現存する絵馬を時代別にみると、江戸時代が10面、明治時代が15面、大正時代が1面、昭和（戦前）時代が2面、不明が2面である。大半が江戸時代から明治時代のもので、当時の安芸津の繁栄ぶりが偲ばれる。

画題を見ると、神馬図は2面だけで、多くは神話、物語、武者絵などであるが、当地ならではの「鯺漁（ぼりりょう）」に関する絵馬が2面あり、当時の鯺漁の様子を知るうえで貴重である。また随神門に懸げられている「勧進相撲番付表」も、当地が相撲の盛んな所であったことを物語っている。

次に、個々の絵馬について紹介する。画については、経年劣化などで見えにくいと思うが、現状を表示する。

《神楽殿の絵馬》

■ 1. 鬼之図（おにのず）



縦：115.3cm×横：77.3cm

画は、剥落が著しく全体像が把握できないが、左側に子供の鬼が何かに縋るように描かれており、中央におそらく親の鬼が描かれていたものと思われる。

今から53年前の「安芸津風土記」7号（昭和47年<1972>5月）の『安芸津の絵馬』（阪田泰正著）では「鬼図」と紹介されており、当時は全体像が把握できたものと思われる。

明治16年（1883）癸未晩春上浣日に三浦忠造保之、土居誠一篤正が奉納。画内に「應雲□□画」と画工名が記されている。

【言葉の解説】

＊晩春（ばんしゅん）：晩春・旧暦（陰暦）の3月のこと。

＊上浣日（じょうかんび）：月の初めの10日間・上旬のこと。

■ 2. 神馬図（しんめず）



縦：75.0cm×横：118.0cm

画は剥落が著しいが、後ろを振り向く神馬（黒馬）を描いている。

画内に、奉納年月日・奉納者名が記されているが判読できない箇所があり先出の「安芸津風土記」7号を参考に読んでみると、

皇和寛政歳在 辛亥□月吉日

新屋 紋次郎 □□屋 □□郎

新屋内 喜八

となりこのことから、寛政3年（1791）辛亥□月吉日に新屋紋次郎、□□屋□□郎、新屋内喜八が奉納。

【言葉の解説】

*寛政歳在辛亥：寛政3年（1791）のこと。

*皇和（やまと）：大和の国を表す。

■ 3. 熊谷直実（くまがいなおざね）と 平敦盛図（たいらのあつもりず）



縦：90.0cm×横：135.5cm

「平家物語」に記されている、源平合戦の「一の谷の戦い」における、熊谷直実と平敦盛の一騎打ちを題材にしたもので、画は、海に馬を乗入れて沖に逃れるようとする平敦盛を、熊谷直実が扇をかざして呼び戻す場面を描く。

絵馬の画題として多く描かれている。奉納年月日・奉納者は不明。

■ 4. 榊山神社永代奉額發句集額（さかきやま じんじゃえいたいほうがくはつくしゅうがく）



縦：69.4cm×横：194.0cm

榊山神社へ、「永代奉額發句集」として、明治21年（1888）戊子□秋に奉納されている。

内容は、西京・一道屋宗匠撰39句と尾張名古

屋・羽瀧園宗匠撰39句に、それぞれ追加1句と會林として、5句が記載されている。

また、額板寄附者として、西山榮助の名前が記されている。（つづく）

第48回 県史協 呉市倉橋島大会のご案内

日 時：10/26（日）9:00受付

場 所：呉市倉橋町431

桂浜温泉館 2F なぎさホール

資料代：1000円、弁当注文1000円

参加をご希望の方は、國松宏史（090-7979-6234）までご連絡ください。申し込み締め切りは8月23日です。

【新規会員募集中】

活動が気になる方は、下記 QR コードから覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

グループ研究会ご案内

古文書研究会

今月の活動はおやすみです

石造物研究会

今月の活動はおやすみです

四日市町並研究会

今月の活動はおやすみです

昔の道探訪会（旧山城探訪会）

今月の活動はおやすみです

原爆資料保存研究会

今月の活動はおやすみです

8月の図書室開放

今月はおやすみです

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第612号

令和7年（2025）8月5日発行

編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男

事務局長 國松宏史

会報編集 進藤真由美